

東関東自動車道
下小野第二高架橋耐震補強工事

設 計 図
【谷津南高架橋（上り線）】

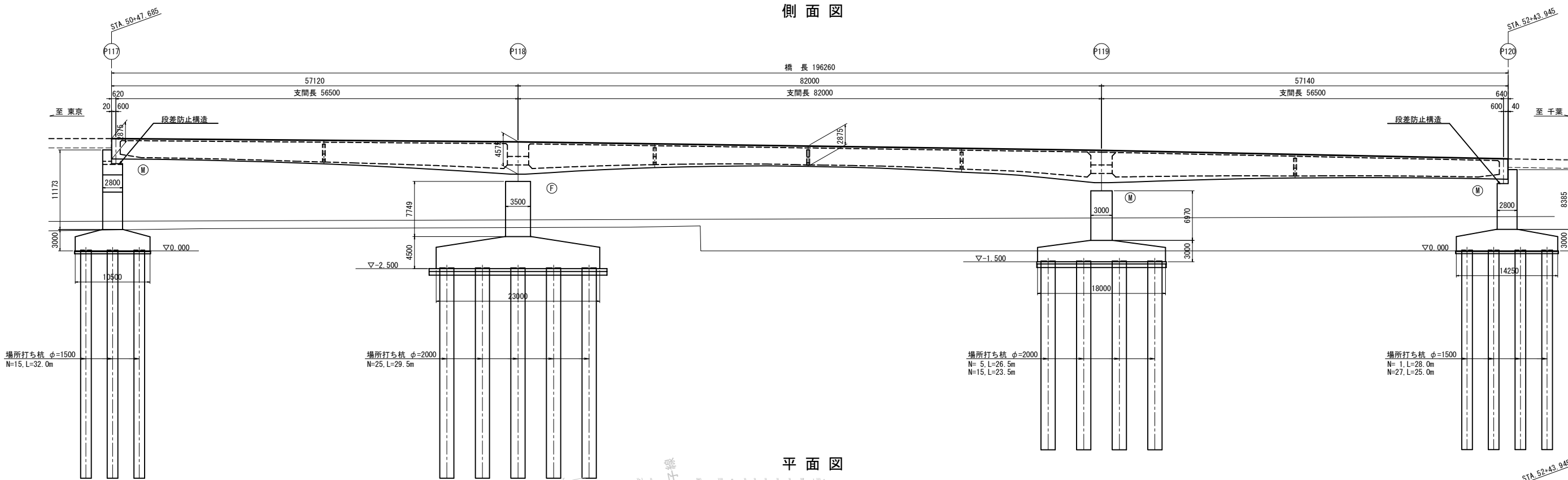
令和 7 年 2 月

東日本高速道路株式会社
関東支社 千葉管理事務所

目 次

[illegible]

側面図

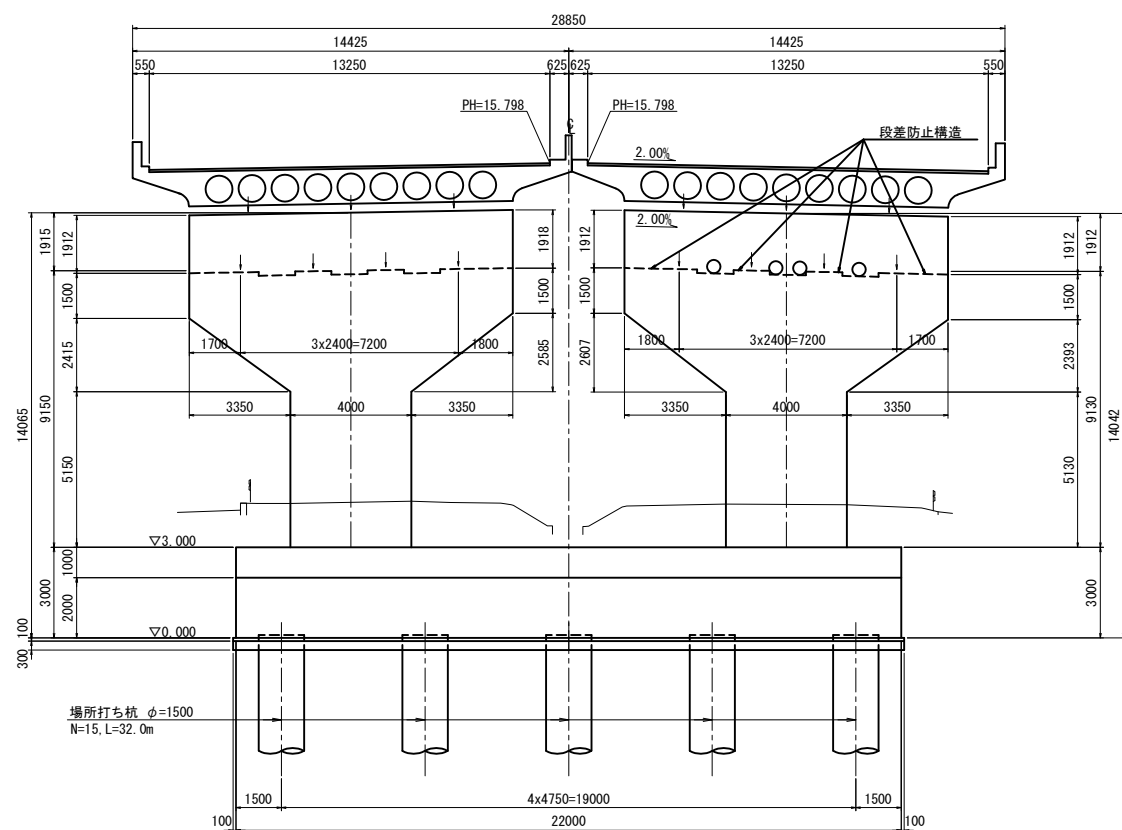


平面図

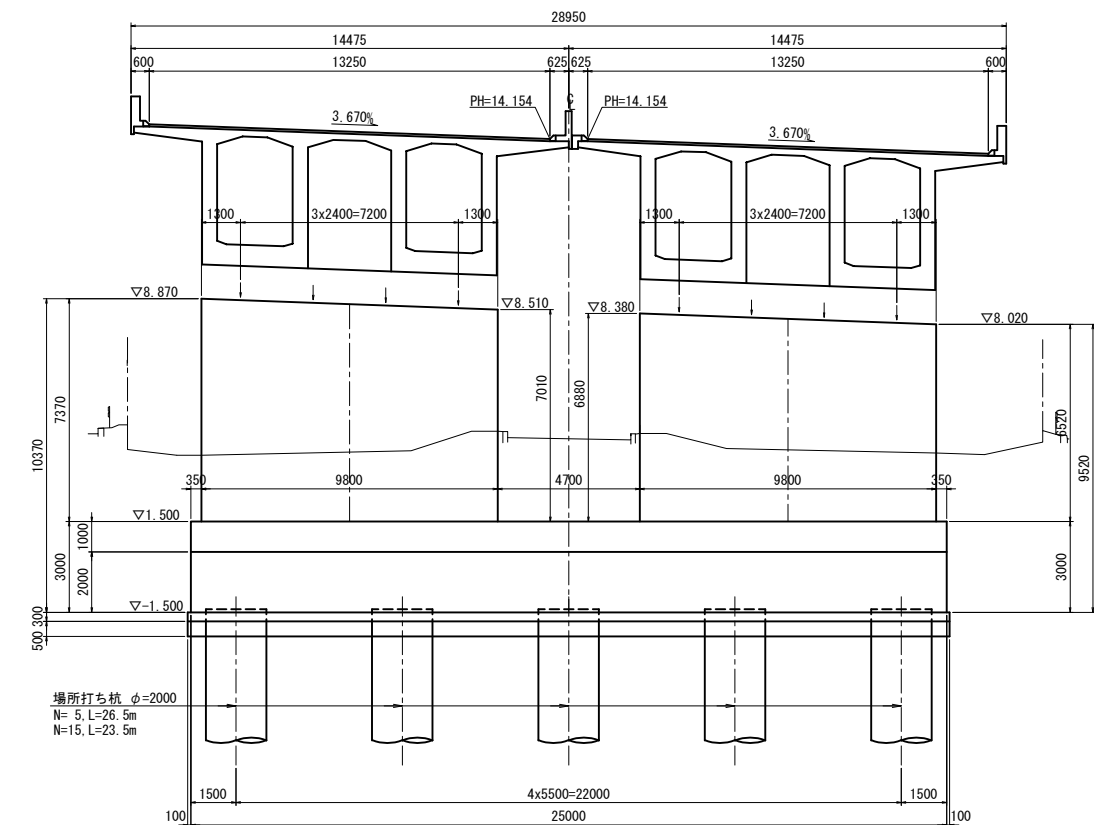


東関東自動車道				
下小野第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	谷津南高架橋（上り線） 耐震補強橋梁一般図（その１）			
縮 尺	図 示	図面番号	1 / 6	
設計会社名	東日本高速道路株式会社			
施工会社名	東日本高速道路株式会社			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉管理事務所			

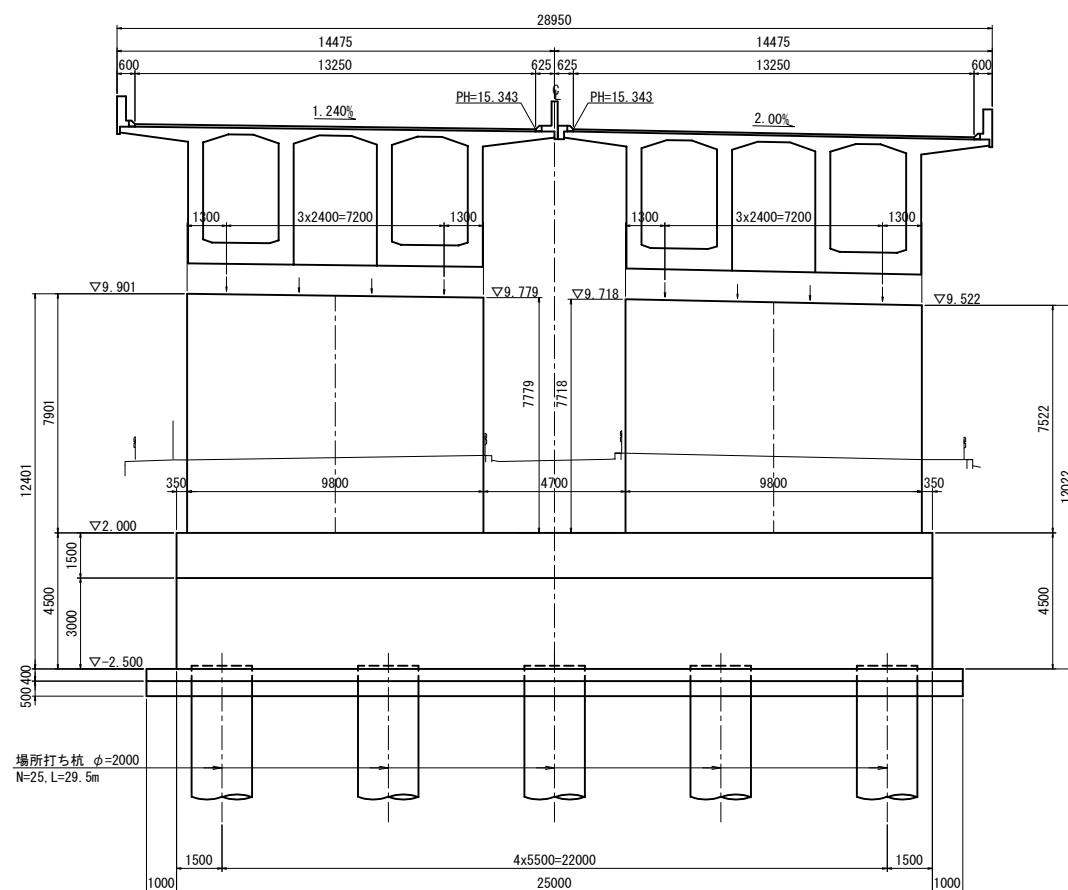
P 1 1 7 橋脚 断面図



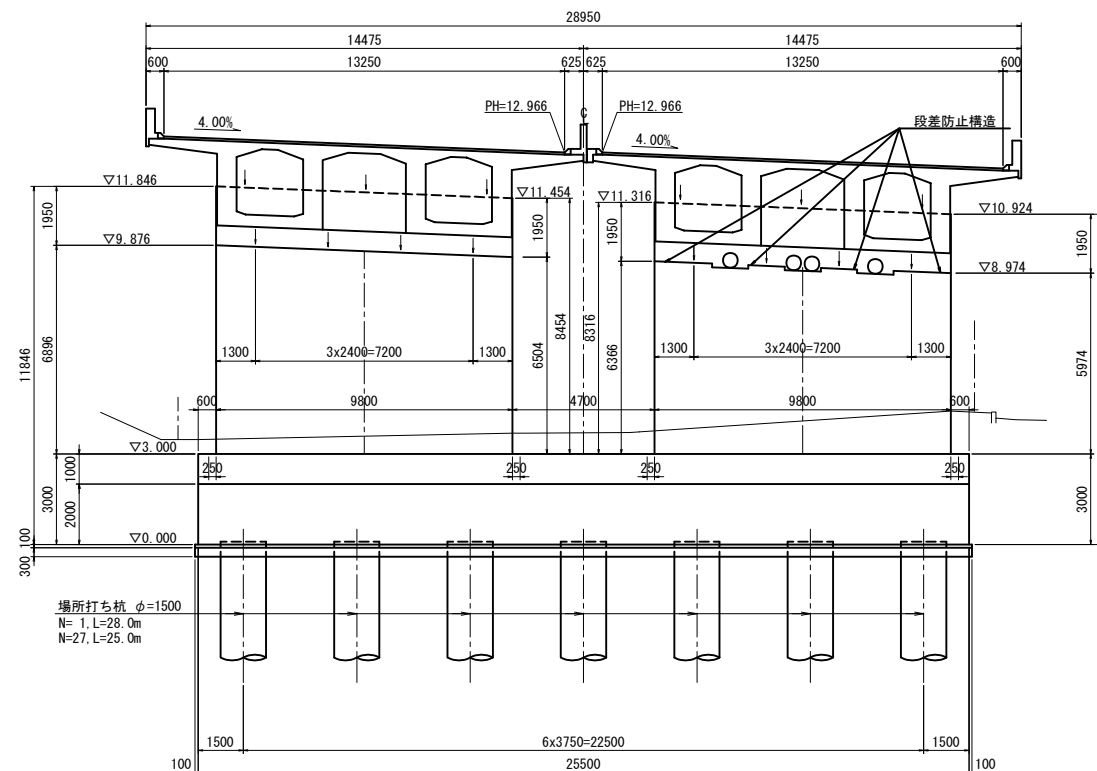
P 1 1 9橋脚 断面図



P 1 1 8 橋脚 断面図



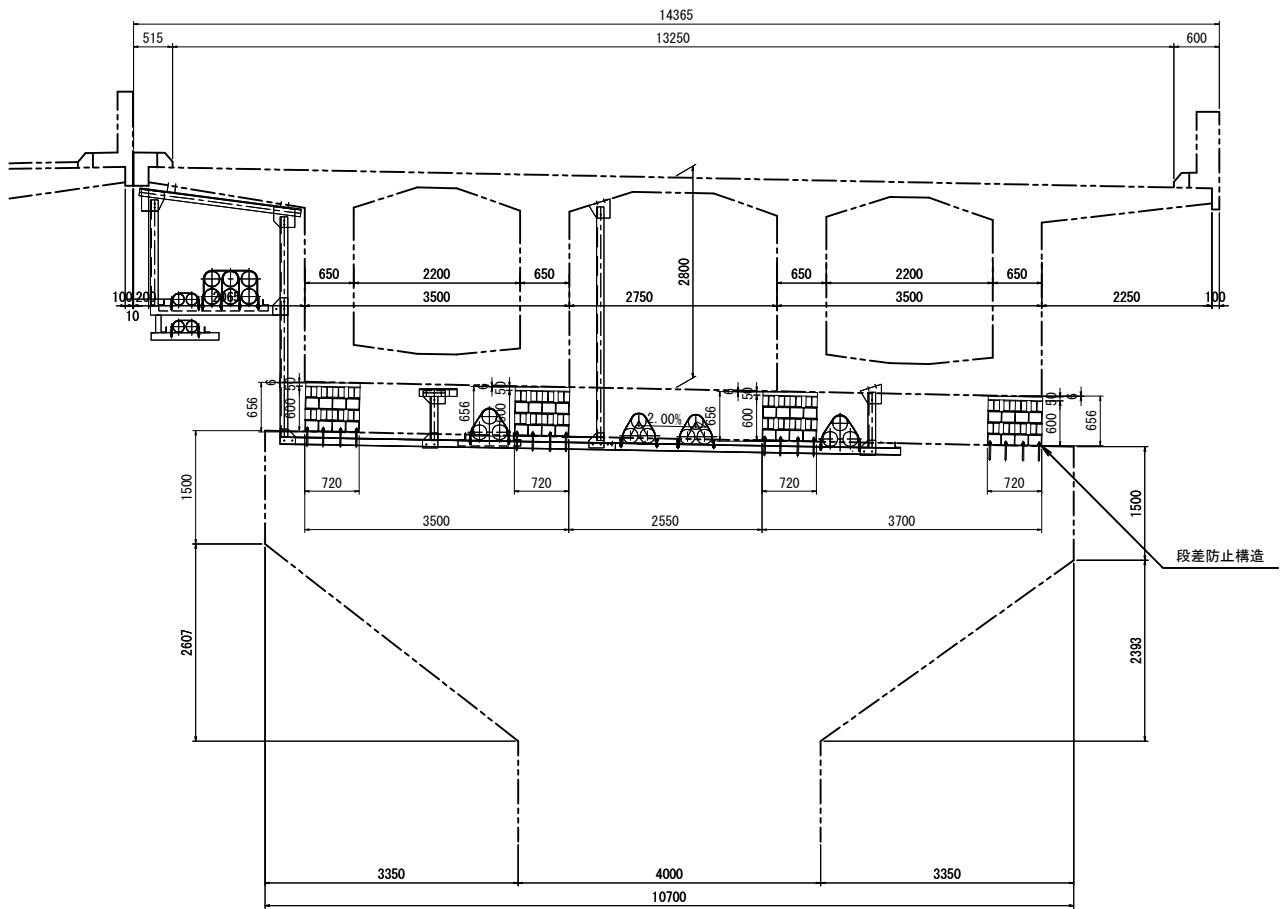
P 1 2 0 橋脚 断面図



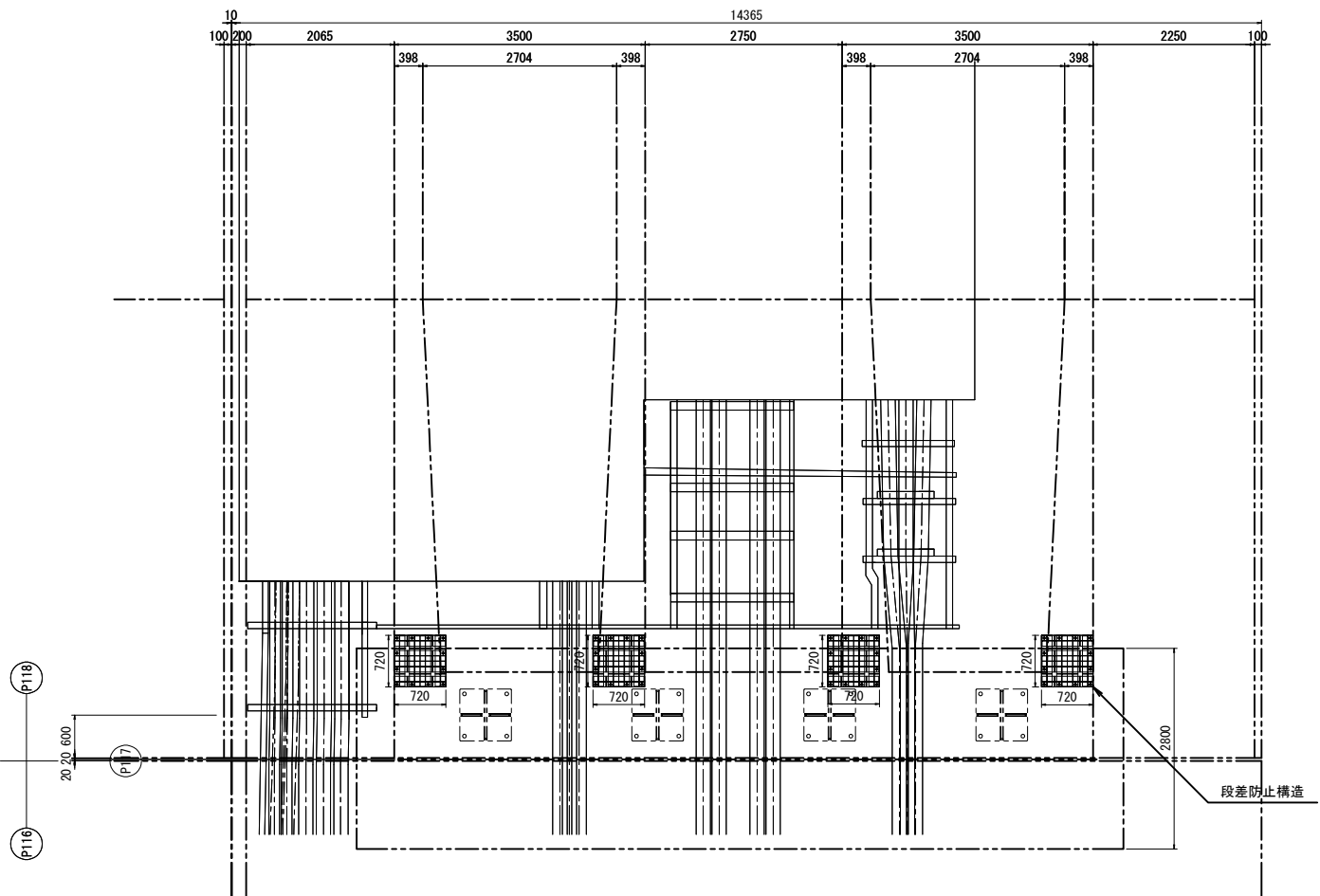
設計条件		上り線	下り線
型 式		3径間連続PC箱桁	3径間連続PC箱桁
橋 長		196.260	196.260
桁 長		196.200	196.200
支 間 長		56.50+82.00+56.50	56.50+82.00+56.50
有効幅員		13.250	13.250
斜 角		90° 00' 00"	90° 00' 00"
平面曲線		R=∞ ～ A=350	R=∞ ～ A=350
縦断曲線変化点		STA. 51+30	STA. 51+30
縦断勾配		<u>0.400% ～ 3.000%</u>	<u>0.400% ～ 3.000%</u>
縦断曲線長		360	360
設計水平震度	建設時	kh=0.24	
	耐震補強時	不明	
	本設計	橋軸方向(タイプⅠ) P117: khc=0.40、P118: khc=0.40 P119: khc=0.40、P120: khc=1.20 (タイプⅡ) P117: khc=0.40、P118: khc=0.40 P119: khc=0.40、P120: khc=0.40	
		直角方向(タイプⅠ) P117: khc=0.40、P118: khc=1.20 P119: khc=0.40、P120: khc=1.20 (タイプⅡ) P117: khc=0.40、P118: khc=0.40 P119: khc=0.40、P120: khc=0.40	
下部工形式		P117: 柱式橋脚、P118～P120: 壁式橋脚	
基礎工形式		P117、P120: 場所打ち杭φ1500、P118、P119: 場所打ち杭φ2000	
建設時 下部工	コンクリート	σ _{ck} =24N/mm ²	
	鉄 筋	SD295	
耐震補強 (施工済)	コンクリート	σ _{ck} =24N/mm ²	
	鉄 筋	SD345	
本設計の 耐震補強	コンクリート	σ _{ck} =30N/mm ²	
	鉄 筋	SD345	
	鋼 材	SM400A	
本設計における地盤種別		Ⅲ種	
架 設 年		昭和57年	
柱 補 強 年		平成9年 橋脚耐震補強 (P118、P120)	
建設時 適用示方書		道路橋示方書 (S53)	
本設計の 適用示方書		道路橋示方書 (H24)	
設計要領第二集 (保全編) R2.7、更なる耐震補強設計の進め方 (参考資料)			

東関東自動車道				
下小野第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	谷津南高架橋（上り線） 耐震補強橋梁一般図（その２）			
縮 尺	図 示	図面番号	2	／ 6
設計会社名	東日本高速道路株式会社			
施工会社名	東日本高速道路株式会社			
事務所名	関東支社 千葉管理事務所			

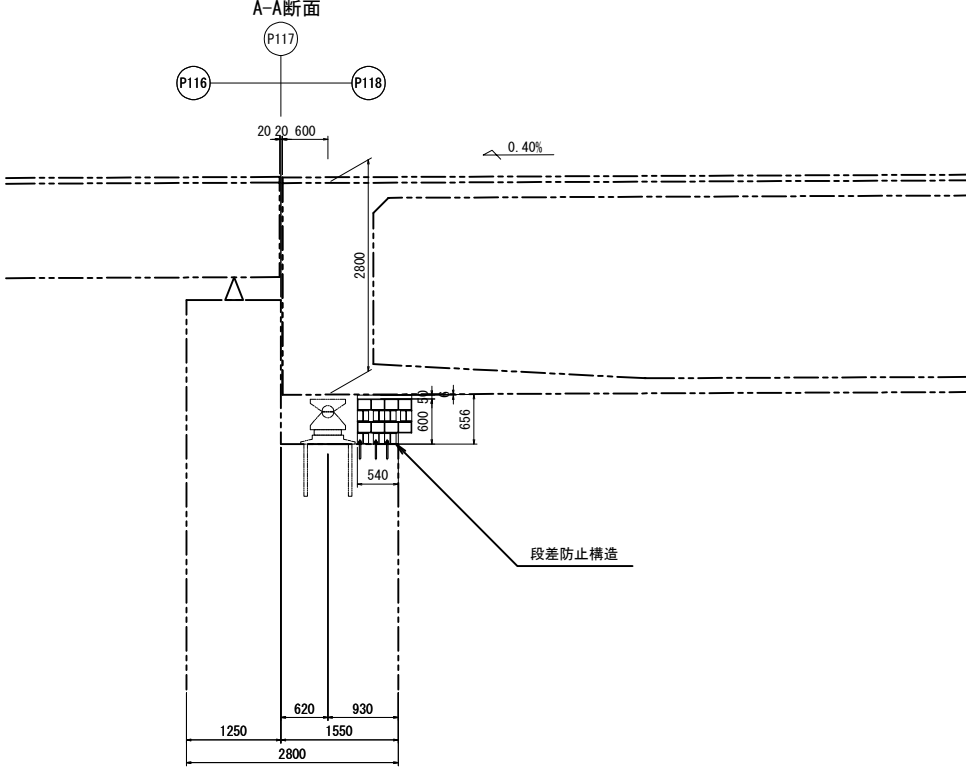
正面図



平面図



側面図

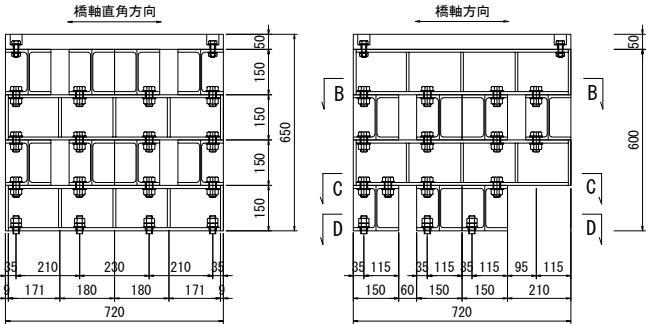
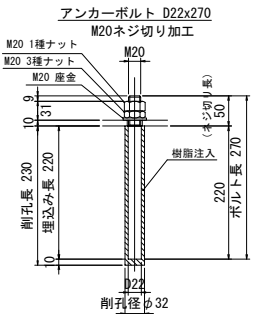


段差防止構造（サンドル材）詳細図

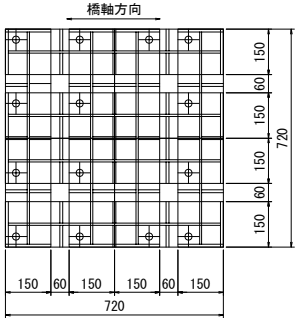
S=1:25

サンドル(4段) 1箇所当り材料

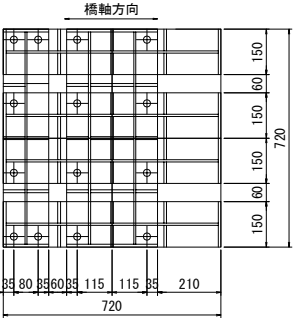
- 15-H 150×150×7/10×702
- 30-PL 150×9×150
- 90-PL 71×9×130
- 1-クロロブレンゴム 720×50×720 (緩衝材) ※
- 4-BN M16×50 (1-W、1-割ピン付、1-3種Nut) (SS400)
- 42-BN M22×55 (2-W、1-1種Nut) (4.6)
- 12-Anc Bolt D22×270 (SD345)
- 12-Nut M20 (1種、SS400)
- 12-Nut M20 (3種、SS400)
- 12-座金 M20 (SS400)



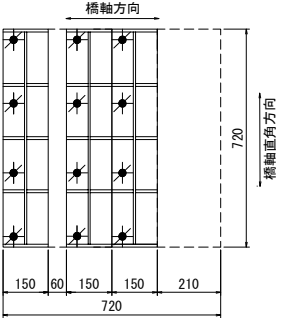
B-B断面



C-C断面



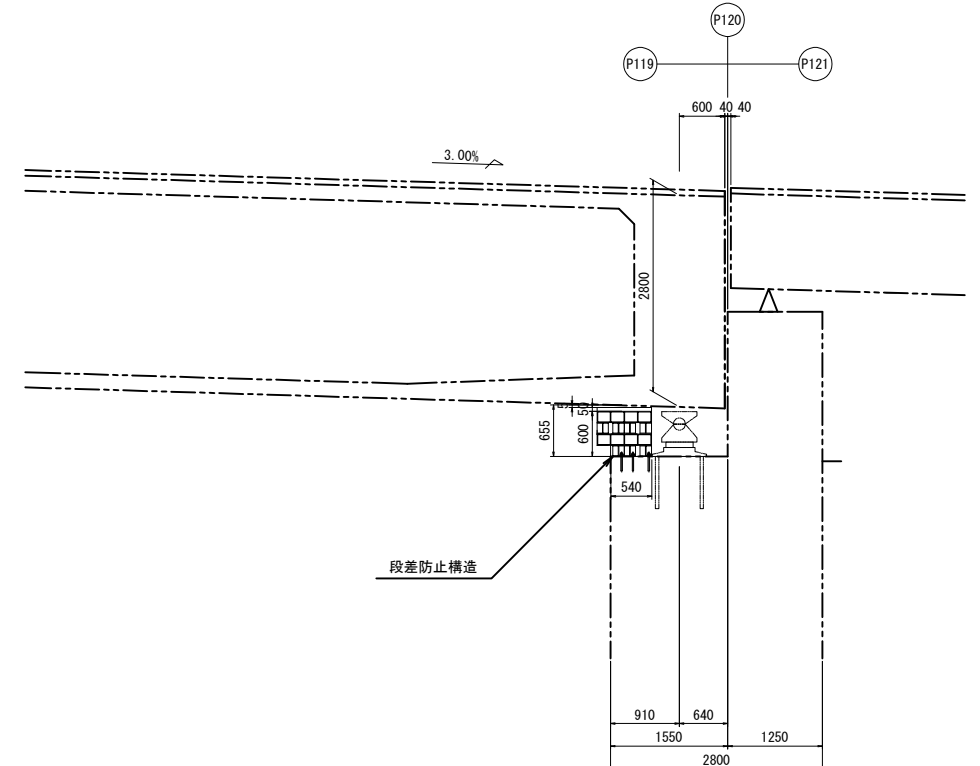
D-D断面



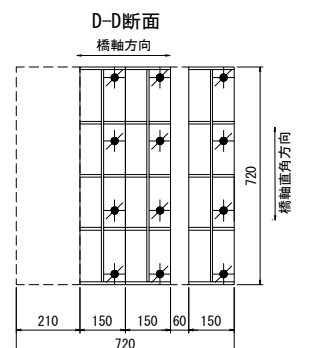
- 注記)
- 特記なき材質は、全てSM400Aとする。
 - H形鋼のボルト・ナット用孔明直径はφ25とする。
 - ※印以外の部材は、全て溶融亜鉛メッキ処理とする。
(膜厚は、JIS H8641 HDZT77 より 77μm以上とする。)
但し、ボルト・ナットの膜厚は、HDZT49より 49μm以上とする。)
 - 部材加工・製作に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
 - 連結用のボルトはゆるみ止めナットを使用すること。
 - アンカーボルト★のネジ切り部は溶融亜鉛メッキ処理とする。



東関東自動車道				
下小野第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	谷津南高架橋（上り線） P 1 1 7 橋脚 段差防止構造配置図			
縮 尺	図 示	図面番号	3 / 6	
設計会社名	東日本高速道路株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉管理事務所			

側面図
A-A断面



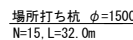
S=1:25



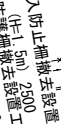
- 1. 特記なき材質は、全てSM400Aとする。
- 2. H形鋼のボルト  用孔直径はφ25とする。
- 3. ※印以外の部材は、全て溶融亜鉛メッキ処理とする。
(膜厚は、JIS H6641 HDZ717より77μm以上とする。
但し、ボルト・ナットの膜厚は、HDZ749より49μm以上とする。)
- 4. 部材加工・製作に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
- 5. 連結用のボルトはゆるみ止めのナットを使用すること。
- 6. アンカーボルト  のネジ切り部は溶融亜鉛メッキ処理とする。

東関東自動車道				
下小野第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	谷津南高架橋（上り線） P 12 0 橋脚 段差防止構造配置図			
縮 尺	図 示	図面番号	4 / 6	
設計会社名	東日本高速道路株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉管理事務所			

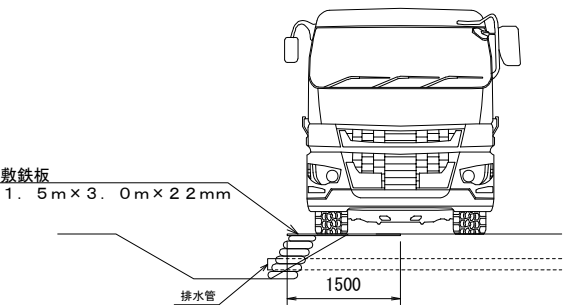
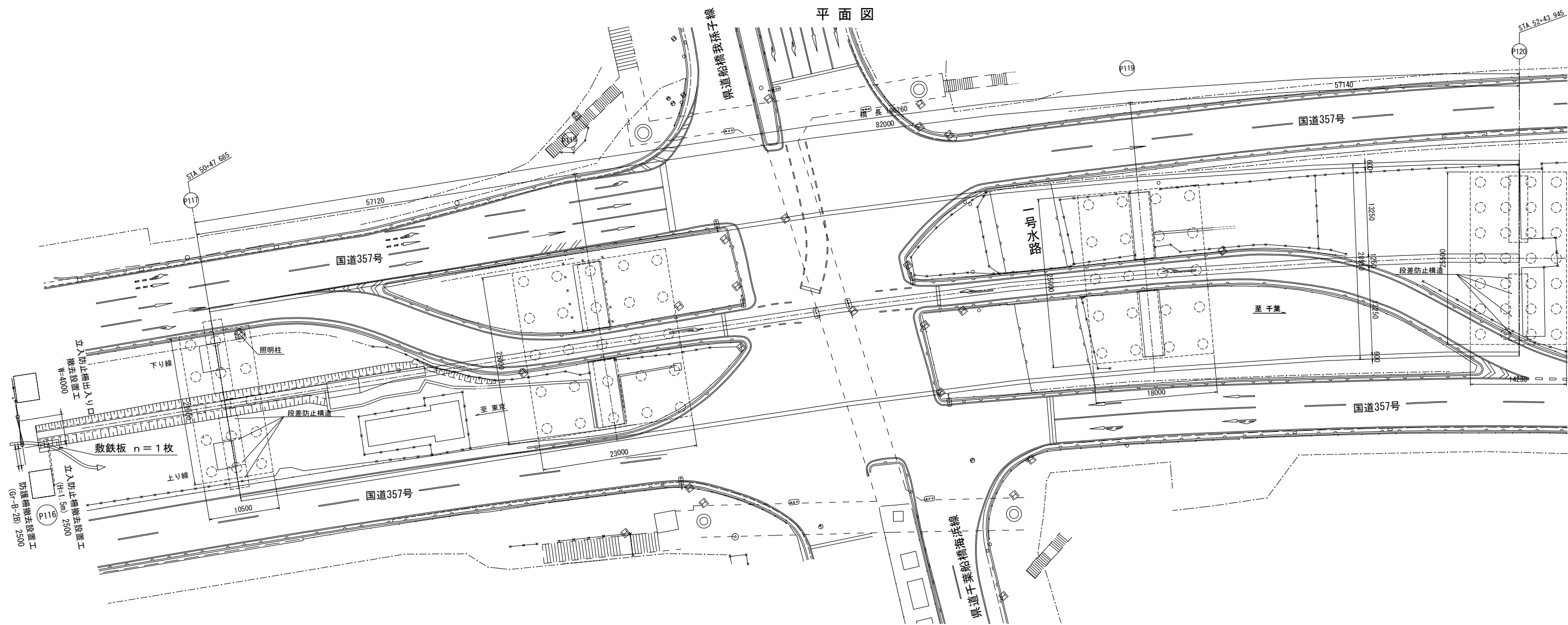
側面図



平面图



東関東自動車道				
下小野第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	谷津南高架橋（上り橋）P117・P120和 施工概要図（参考図）			
縮 尺	図 示	図面番号	5 / 6	
設計会社名	東日本高速道路株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉管理事務所			



東関東自動車道 下小野第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	谷津南高架橋（上り線）P 1 1 7 橋脚 作業ヤード整備工図（参考図）		
縮 尺	図 示	図面番号	6 / 6
設計会社名	東日本高速道路株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社		
事務所名	関東支社 千葉管理事務所		